

高退協ニュース

全退教第六回定期総会

去る六月四日、東京飯田橋の労政会館にて七四(婦十二)の代議員(高知三)により開催されました。幹事会報告・決算報告・予算提案・役員選出・総会宣言等、午前十一時より午後五時迄、精力的に協議が行われました。役員及び幹事も概ね再任されました。第五回全国学習交流集会は、例年どおり十月末または十一月の冒頭におこないます。また、第二回全退教ツア―は、一月十五日から四日(五日の予定で、沖縄ツア―を九十名予定で実施します。詳細については「全退教ニュース」又は「東

研修旅行 予告

温故知新のたび

11月 12日(火)、13日(水)

深まりゆく秋の伊予路の旅を計画しました。伝統的なものと、新しい息吹を汲み取る旅にしましょう。肱川、大洲、内子を中心としてゆっくり時間があります。研修ポイント等に注文や参考意見がありましたら事務局まで申し付けください。詳細な計画は9月号ニュースでお知らせします。(係 溝淵 窪田 竹島)

11.12日	高知	肱川	大洲(泊)
11.13日	大洲	内子	高知(帰)

夏季学習講座

日時：1996年8月29日(木)
PM. 2:00~4:30

場所：高知城ホール2階 会議室

内容：①合田正寛(俳号 青幹)さんの俳句のお話「東西南北」

②高知市役所長寿生活課 高齢者係長 佐竹敏彦さん「知ってとくする福祉の話」

つづいて5時から懇親会をもちます。会費は5,000円です。沢山のご参加をお願いします。

「西南北」で特集を組み案内します。「こうたいきょう」二十周年特集号を十部持参して完売しました。T・N生

高教組支部総会に

高退協からメッセージ

6月1日に開かれた高教組の支部総会(幡多支部は29日開催)には高退協から役員が参加、激励をかね、記念誌「それぞれに：この五十年」の購読をお願いしました。支部では久しぶりの再会を歓迎してくれ、総会では厳しい情勢を打開する論議が行われていました。幡多支部では例年総会のと、幡多退職者に呼び掛けて懇親会を深め、安芸支部では独自に「退職者を励ます会」を開

高知高退協事務局
1996.7.16
No.81

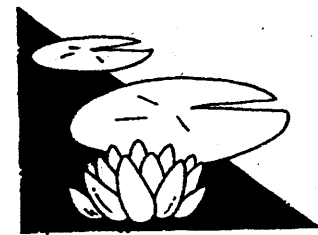
高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内二丁目一〇
TEL 088-812-1682
振替口座 徳島 51-1-1893

高退協は、50年のたかいたの歴史を受け継ぐと記念誌四〇〇部を組合員に購読してもらおうよう取り組んでいます。

会員は過去最高

今春、新たに17名の方々が高退協に加入された結果、会員は三百四十一名になり、過去最高になりました。新加入の方々には次の通りです。

- 千光士温(中芸)
- 阿部勝好(山田)
- 熊沢哲朗(小津)
- 田所金久(高工)
- 井上徳治(高工定)
- 中川騰清(市商)
- 横川哲郎(市商)
- 西田令子(市商)
- 島山雅恵(子鹿)
- 安並千代美(宇佐)
- 中川正路(伊商)
- 池田亀喜(伊商)
- 今井儀一(伊商)
- 西森実男(須崎)
- 北岡リツ(須崎)
- 平井楠子(幡多農)
- 小島進(中村)



訃報

会員の内田長雄先生が

五月十八日に、

中内真一先生が

五月二十日に、

川田広彦先生が

六月二十八日に、

それぞれ死去されました。お三方のご冥福を心からお祈り申し上げます。

老声草

政府与党は、国民の圧倒的多数の反対の声を無視し、住専処理法案を成立させました。さらに、来年四月から消費税率を三%から五%に引き上げることを閣議決定しました。

これにより消費者物価が約一・五%値上がりする予想で、超低金利政策の続行とあいまって私たち年金生活者をいっそう苦しめることとなります。「そもそも国政は国民の厳粛な信託による」という民主政治の原理からいって、消費税率の引き上げを国会にかけずに閣議のみで決定することは不当であり、消費税率導入そのものが国民の審判を受けてないことから、「国民をえなだるる政治」と言わざるをえません。

五%への引き上げは、高所得者に比べて低所得者にいっそう悪影響があり、その上現行の特別減税の廃止が計画されており、怒り心頭です。確かに、赤字国債の累積高が二百四十一兆円(国民一人二百万円)あることは重大ですが、住専処理の二次損失分一兆円以上、「新中期防衛力整備計画」で五年間で二十五兆円、基地移転費一兆円、「首都移転計画」による建設費十四兆円から二十五兆円など歳出増が目白押し。反面、行政改革や国債償還利率直し、大企業優遇税制の見直しなどには全く消極的なのに、消費税の増税だけの押しつけは断じて許されません。

五%の引き上げは、将来の一〇%ないし一二%への引き上げのためのレール敷きとみななければなりません。今こそ私たちは、「消費税増税の実施をくい」とめるために日本列島をゆるがす国民的な運動を展開しなくてはなりません。「滅相やにすな」と、怒りに燃えて老人パワーを発揮しようではありませんか。(岡崎)

「素戔嗚日記」抄 坪井 幹之

五月

「十日」老泳会の日、会津地方を旅行中。偶然にも室内プールのある牧ノ戸温泉に泊まる。はるかなる「みちのく」の温泉プールで独泳、「老泳会」に参加。

「十三日」高退協事務局会議。二ユースの送迎準備のあと、新年度の任務分担等について協議。五時より役員款送迎会。十八名の参加で盛会。各人の近況報告などで交流を深める。

「十七日」老泳会「全員願」を揃える。

「十八日」高退協学習会。テーマは「高齢者問題」、十八名の参加。医療、介護など話が弾む。終了後、四名で呑みながら絶話。

「十九日」神田のリハリビ病院に入院中の叶岡さんを見舞う。はやくも病院労組の講師を頼まれたとのこと。

「二十三日」高退協を代表して中内さんの告別式に列席。五十年ほど前に職場をともに

した仲、「冥福を祈るのみ。」

「二十四日」老泳会「春野より山崎孝秋さん初参加。五月晴れが続く。」

「二十六日」山の会「五月例会、徳島県の高越山に登る。総勢二十二名。一時間半の急登で役の行者ゆかりの権現宮に着く。記念写真後、船櫃のつじ園へ。開花がおくれ三分咲きながら見事なもの。昼食をして下山。村営「ふい」温泉」に入浴。全員無事帰高。夕食のビールの味は……、書かずもがなか。

八月

「七日」老泳会」に参加。四国地方も梅雨入り。蝸牛土佐も讃岐も 雨の中

「十四日」老泳会」五名全員参加。

「十五日」高退協読書会」七名出席。論議は「民主文学、秀作選」に集中。内容が暗い、身辺雑記に終わっている、私小説的だ、面白さに欠けている、等々批判的な読書感もあったが、読んでよかったが大方向の結論。次は九月に「坂の

ニヤンマー慰霊の旅 (つづき)

古味 忠男

我々一行はヤンゴンの日本人墓地、サガインヒルの日本パゴダ、メイミョウの荒れ果てた農村の陸軍墓地他、一行の戦没者ゆかりの地で慰霊祭を行った。日本、ビルマ両国旗、神、しきみこそないが菊や色彩あざやかな花(橋本知事より託されたミニ花輪、土佐鶴、司牡丹のバック、故郷の菓子、個人をしのぶ手紙や写真など皆それぞれ思い出の品を供え、祭壇を飾り、やがて僧侶(戦友の一人)の説経から、祭主(団長)の祭文、遺族の慰霊の辞と続き、苦しかった戦中、戦後、新憲法の下生まれ変わって民主日本となり、高度経済成長をとげ、世界に冠たる経済大国として雄飛する現在の日本、また英霊たちの最後の苦しみを感じ、なつかしい故国の土を踏めず最愛の家族に再会することなく異国の地に果てた無念さを述べるあたり、かすかなすすり泣きやがて耐えきれず慟哭する姿に変わった。

小生自身も段々目頭が熱くなり、一瞬五十年前にタイムマシンが逆行し、村を挙げての父の遺骨の帰還式生家での葬儀が生々しく甦った。やがて戦友たちを中心「君が代」と「海ゆかば」の合唱となった。長年反対してきた「君が代」であったが、いつのまにか合唱に加わっている自分を発見して複雑な気持ちになった。しかしながら、これらの歌が遠い異国の地で祖国の平和と安寧の礎となつて散つていった英霊たちに捧げるには最もふさわしいレクイエム(鎮魂歌)のような気がした。

上の雲」で司馬史観を解明することになった。

「十八日」高退協事務局会議、夏季学習講座など当面の課題、取組みについて協議。

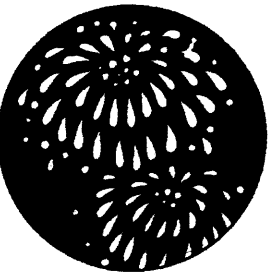
「二十一日」老泳会」今日は夏至だがプールは加温。

「二十四日」礼文・利尻花の旅」に出発。総勢三十六名。羽田経由で稚内に飛ぶ。フェリーで礼文島へ。島の南端知床の民宿に泊まる。

「二十五日」島の北端スコトン岬まで4時間散策コースをハイキング。レプンアツモリソウを始め多くの花々に出会った。

「二十六日」宿から名勝桃岩までハイキング。途中はフウロウなどのお花畑の連続。桃岩で記念写真のあと自由行動。礼文林道のレプンウスユキソウの群生地を訪れ、昼食後利尻に渡る。その夜は鶴泊の観光ホテルに泊まる。

「二十七日」早朝、利尻山に向かう。名水「甘露泉」で朝食、登山開始。次第に風強まり、台風並みの突風にあら



最近の「読書会」か
13/83 37/52 559/400 159/0
崎山 正

四月二十七日、高退協読書会は吉村昭著「漂流」をとりあげました。新潮文庫で四百三十頁、二日で読了。土佐の船乗りが嵐に遭って、絶海の孤島に漂着。死に直面しながら、ときにはアホウ鳥の卵を食し、その殻で雨水を溜めて飲料水とする孤独な生活。つぎつぎに仲間が倒れ、洞窟に埋葬する状況には慄然とさせられ、背筋はうそ寒くなり、まさに巻をおくことが出来ない筆力と感じ入りました。



れ歩行困難。遂に六合目付近で引き返す。ボン山から船泊へのハイキングコースに連絡変更。エンレイソウなどの高山植物を観察しながら、正午頃船泊に到着。昼食。ホテルの車を呼んで下山。

「二十八日」朝、稚内に渡る。国営の大牧場で昼食。宗谷岬からクッチャロ湖、サロベツ原野と廻る。お目当ての花は五月の降雪でいまひとつの感。夜は豊富温泉で打ち上げの宴。

「二十九日」早朝出発、サロベツ原野を再訪。旭川で昼食、富良野のラベンダー花園に立ち寄り、札幌へ。寝台特急「北斗星」で北海道と別れる。二十名は名物フランス料理に堪能。青函トンネルを抜ける。

「三十日」午前九時すぎ上野に到着。羽田から高知空港へ。全員元気に帰着、北海道旅行を終える。

六月十五日の読書会は「民主文学」の三十年を記念した短編小説三十三篇の秀作選がとりあげられました。前回の「漂流」と違って、その一つ一つは戦前、戦中の生活、病苦、戦争、貧困、家族の死、等々実に重苦しく、ときには巻を閉じたくなる思いがしました。しかし、読了したときの感動とさわやかさは参加者の共通した感想でした。

その一つ、窪田精氏の「富士山頂まで」という作品。七十二才の老作家が最後の決意で富士登頂をめざす。それは昭和十九年、五十才の母が反戦作者の南方派遣を知り、命がけて命ごい折願の登山をしたことを戦後知らされたからです。頂上に至る一歩一歩の重い足どりと、母を中心にした一家の貧苦と弾圧の生活を重ねあわせた作品でした。

文学はエンターテイメントの要素とともに「いかに生きるか」という古くて新しい命題に応えたものでなければと感じた次第です。

高教組定よ

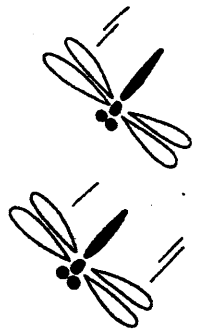
梅原憲作

今回の「高教組便り」は高教組と高退協が火つけ役となり今日まで関わり続け「空襲展」や関連諸行事について「便り」。

戦後五〇年で「戦後を御破算にしたい政府・財界の意向に反し、むしろこれを契機に沖繩・安保や従軍慰安婦問題をはじめとする国家責任が厳しく問われ、戦後の矛盾が一気に吹きだしたような年になった。「現職」から「退職者」へ担い手が移り、こちらで打ち止めと考えていた意図に反し、「寅さん」が続く限り止められない行事になってしまった。

五一年目を機に、「空襲展」はか諸行事実行委員会から「ピースウエイブ実行委」とこれまでの「高知・空襲と戦災を記録する会」が共催となり、若い世代にバトンタッチするべく「出会ったら、友だち」を合言葉に、「21世紀に向けて平和の波」を起こすことになった。空襲展を始めとする11の最多の行事となった。ここで、諸行事の特徴と印象に残ったことを二三述べてみよう。

今年八月、普天間高校生からの呼びかけに答えて全国の高校生たちと集う「沖繩平和の旅」が行われる。そのための学習も兼ねて六月二日に行われた高校生平和祭は、沖繩基地問題をテーマにした討論が中心となった。むつかしい問題に取り組んだが高校生の表情が印象的だった。



夏少女

高知上映ご案内

半世紀をへた原爆
ヒロシマで死んだ少女が
美しくよみがえる
愛のファンタジー

8月4日(日) RKCホール

- 1回目 10:00~11:30
11:40~12:20 (早坂 暁 講演)
- 2回目 12:30~14:00
14:10~14:50 (早坂 暁 講演)
- 3回目 15:00~16:30

前売券 ¥1,500
※前売券は高教組又は高退協役員にお申し付け下さい。



七月一日から八月四日までの第14回平和七夕まつりが二八連の千羽鶴の吹流しが三つのアーケードを飾っている。県下の小・中学校に定着し、今年はさらにデイスーパービスセンターなどの社会福祉施設からの参加が目立った。入所者・職員が一体となつてリハビリに取り組む姿が千羽鶴の向こうに浮かんだ。

空襲展は第18回、民権記念館で七月二・七日で行われた。入場者数六日間で約千二百人。大人の数は毎年ほぼ一定だが、小学校の団体が一校もなかつたのが今年はじめての例。だが個々の先生呼びかけ、引率で地域グループの参加はあつた。近くの県立校と私学をはじめ、高校生の制服姿は小津高三年生を除いて一名もなし。

なぜ会場から遠い小津高三年生の多数の見学なのか。高退協和田明氏の実践以来、同校森下清二郎教諭が、期末レポートの課題(平常点加算)として課す。動機は「点数」でも資料を見つめ、係の説明を聴く生徒たちのまなざしが真剣である。入口は打算でも出口の彼らは感想文を書き、カンパも入れて「ありがとう」の言葉を残して立ち去つた。大人の生き方と役割が改めて問われている思いがした。

陸続とつづく行事に参加とご協力を。



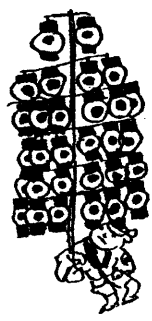
保障期間中の「現況届」廃止を全教共済に要望

毎年6月頃になると全教共済から現況届を提出するよう通知が来ます。しかし終身年金の場合は①保障期間(10年、15年)は、加入者の生死にかかわらず年金を支払う契約であること。

②にも拘らず「現況届」の証明をもらうため、わざわざ役所までゆき、しかも料金三百円を支払わねばならないこと。

③日教済の場合、保障期間中の「現況届」を廃止したこと。

以上を理由に、保障期間中は「現況届」の提出をやめるよう全教共済に要望しました。その結果、全教共済は7月に開かれる第百生命との連絡会で議題とし、意向にそつよう努力したと連絡がありました。(南)



高齢者問題学習会

窪田一郎

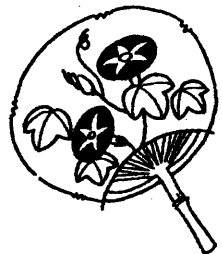
五月一八日(土)高知城ホール会議室で約二十名の参加で行なわれました。年金者組合発行の学習パンフをテキストに、事務局メンバーをチューターに議論を深めました。年金、医療介護、金利、財源という問題がテーマでしたが、やや消化不良の面もあつたものの有意義な集まりでした。

ますます高齢者いじめの政策がとられようとしていける今日、学習を深めてこれに立ちむかう力にして行く必要があると思ひます。今後にもこうした試みを続けていきたいものです。

会員の消息

「叶岡 哲さん」五月十四日、二輪で転倒骨折、神田のリハビリ病院に入院治療中。

「川窪良夫さん」二月中旬高知脳神経外科に入院。その後リハビリ中とのこと。



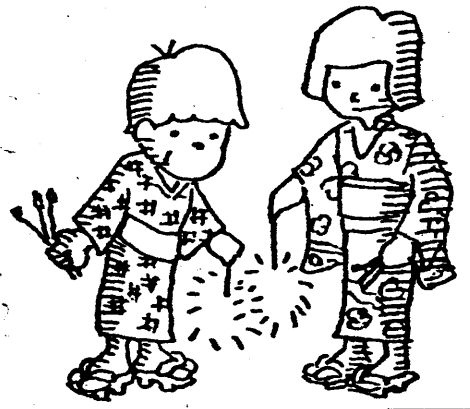
全障研第三十回全国大会

T・N生

八月二日十二時より四日十五時迄、全体会は県民体育館、分科会が、南高校・工業高校・汐江市民図書館・ふくし交流プラザ・高知城ホールで開催されます。入門講座は、自由民権記念館です。

分科会は全部で四十六分科会と、特別分科会四、オープン分科会二で、合計五十二の会場で行われます。大会テーマは、「ともにひろげよう やさしさと情熱で 人・自然・平和のわともを拓こう。21世紀のとびらを」です。

記念講演は、二日十四時十六時に、愛媛大学医学部教授 金沢彰氏により「島にくらしをきずくー大三島の地域精神医療活動ー」の演題で行われます。事務局は、高知城ホール三階にあり、電話番号は、二三一三九七六です。



第三回市民オンブズマン全国大会へのご案内

全国の体験を学び、今後の活動に生かすために、又、本大会を盛り上げるために、多くのご参加をお願いいたします。(林)

記

- 一、日時 七月二十七日(土) 十三時より
同 二十八日(日) 十二時まで
- 二、場所 高知城ホール
- 三、内容・カラ出張、官官接待の追及(二十七日)
・全国各地の報告(〃)
・監査制度の改革にむけて(二十八日)
・眠る議会に市民の息吹を(〃)
・特別講演 (二十七日十五時四十分)
佐高 信 氏 (評論家)
演題 『お任せ民主主義社会におけるオンブズマン活動』
- 四、参加費 一般 二、〇〇〇円(資料代共)
会員 五、〇〇〇円(〃)
- 五、懇親会 二十七日 十八時
会費 六、〇〇〇円
- 六、申込先 高知市新屋敷一―七―一八
(至急) 田所辨時 ☎七五―一九二九



5月25日 葉山村永野 聖音寺にて

端居して鯉の動きを見て飽かず 青 幹
 英傑は村へ帰らずほととぎす たねを
 廃れ庭庭石菖の咲くばかり さちを
 一類は白雲去来夏近し 青 幹
 鐘楼にほしいままなる青葉風 みち代
 瀧の棲むてふ里や谿若葉 伸 秋
 像の無き台座夏草生ふばかり たねを
 緒の白き下駄一足の涼しけれ 伸 秋
 鐘楼を抜け舞ひあがる夏の蝶 みち代



「健康手帳」

T・N生

糖尿病の治療と
予防に「亜鉛」

微量元素研究の第一人者
 日本大学医学部教授の富田
 寛先生によると、糖尿病も
 亜鉛不足が引き起こす病気
 で、インシュリンを膵臓か
 ら分泌するために亜鉛が必
 要であり、インシュリン自
 体にも亜鉛が含まれておる。
 亜鉛が不足すると、膵臓の
 中でインシュリンを作るこ
 ともできない。つまり糖尿
 病の予防にも、治療にも亜
 鉛は非常に重要だという。
 亜鉛を含む健康食品に「
 ソルティア」がある。原料
 は北欧の深海で採れるヒバ
 マタという褐色の海藻、各
 種のミネラルが豊富に含ま
 れており、とりわけ亜鉛の
 含有量が抜群である。この
 健康食品「ソルティア」に
 関する詳しい問い合わせは
 (株)ペンファクト・コー
 ポレーション・TEL〇三
 ・三五八三・七〇三八へ。

相撲三知識 十五

◎学生出身力士(その2) 林 勤

昭和四十五年一月、三月
 (輪島)、五月、七月(二
 代目豊山)と四場所続けて
 学生出身力士が幕下全勝優
 勝を遂げて話題になった。
 この頃から、学生からの
 角界入りが次第に多くなっ
 た。本県でも、荒勢(高知
 高―日大)朝潮(小津高―
 近大)琴藤沢・土佐ノ海(

共に高知高―同大)と相次
 いで入門し、怪我のため惜
 しくも幕下で廃業した琴藤
 沢以外は期待通りの活躍を
 している。今年一月入門の
 柳川(高知工―日大)にも
 期待したい。

学生出身幕内力士は戦前
 二名、戦後二十八名(平成
 八年七月場所現在)である。
 本年七月場所の学生出身幕
 内力士は十一名であるが、近
 大学別では、日大五人、近
 中大が各一名、である。因
 みに、十両にも日大出身が
 一名おり、日大出身力士が
 群を抜いて多い。

舞の海と智ノ花は共に日
 大出身、小兵で屈指の業師
 である。その上、智ノ花は
 二十七歳の妻子持ち、高校
 教員からの入門(平成四年
 三月)等も加わり、人気の
 高い両力士である。

フアンの期待があまりに
 も大きかったため、残念な
 がらその期待に応えられな
 かったのは、服部(同大、
 藤ノ川)と久島(日大、久
 島海)である。服部は、高
 校柔道のホープから転向し
 て同大で活躍し、稀にみる
 逸材と言われたが、「受け
 身の相撲、腰を痛めた」等
 で、平幕止まりであった。

久島は、高校、大学時代
 のタイトルを殆ど独占して
 怪物くんと言われて入門し
 たが、恐らく一度も三役に
 なることなく終わりそうで
 ある。プロの世界はきびし
 いものである。

土佐ノ海は、今や相撲界
 で期待される力士の一人に
 なった。柳川も頑張つて、
 土佐ノ海と早く対戦するよ
 うになつてもらいたい。両
 力士の大成を祈念し、声援
 をおくりたい。

寄稿のお願い

退職後は音信も途絶えがちです。
 それだけに高退協ニュースを旧知を温め、
 近況を伝える「会員の広場」にしたいと思
 いますので、皆さんの積極的な寄稿をお願い
 します。

- 例えば
- 〈わたしの健康法〉 〈旅の体験記〉
 - 〈近況やご意見、会員の消息〉
 - 〈老眼鏡〉 読書、映画などの感想
 - 〈俳句、短歌、川柳、詩〉
 - 〈高退協へのご意見、ご要望〉
- ◇紙面の都合で若干調整させていただく場
 合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ◇原稿送り先 〒780
 高知市若草南町10-2 南 千加良 宛